

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200125		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら浦安富士見 (1階)		
所在地	千葉県浦安市富士見5-15-11-1		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果	市町村受

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

専門家による、日常生活動作(ADL)維持のための集団体操を継続して実施し、認知症ケアに精通した職員によるコミュニケーションを大切にした自立支援を中心に取り組んでおります。ご利用者様が住み慣れた地域での安心と安全な生活を送っていただけるようなサポート体制の強化と、ご家族様や地域に向けた認知症の正しい理解を求める取り組みにも努めていきたいと考えております。又、職員間においては意見交換を活発に行い、同じ方向に向かう事で離職を防ぎ、一丸となって利用者様支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは、利用者一人ひとりの思いや意向を日々大切に確認し、居室担当の職員がマンツーマンで担当の利用者と外出できるように取り組んでいます。都内の駅巡りや楽しいランチタイムが過ごせるように寿司外食に出かけたり、市の文化会館で開催された歌声コンサートの観覧など、利用者が行ってみたいと要望する場所や食べてみたいと要望することに個別支援を通じて丁寧に対応しています。職員一人ひとりがホームのスローガンである「笑顔あふれる」、「活気あるホーム」を大切にしており、限られた職員体制ではありますが、時間を有効的に活用し個別支援を通じて利用者の要望に応えることができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時間に会社の企業理念等を読み上げ、意識の向上に努めている。また会議の中でもホーム長より口頭で伝える場面もある。	会社の企業理念、運営理念を事務所内に掲示しているほか、毎朝の朝礼で唱和し理解を深めています。また「健康で笑顔・花があふれる活気あるホームへ」をホームのスローガンに掲げ、全体で共有し日々の行や支援に活かせるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事はもちろん、事業所の行事でも近所の方の参加協力をお願いしているが、まだ実施には至っていない。	買い物で近所のスーパーを活用したり、近隣の飲食店を活用した外食支援を通じて地域の方と交流が図れるように努めています。また、自治会長から地域情報の提供を頂くなど、協力を得ることができています。	今後に向けては、地域のボランティアなどの受け入れなども進め、地域との交流がより充実していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の3事業所合同にて認知症カフェを毎月1回実施。(地域包括支援センターの後援あり)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、自治会の委員、民生委員、地域包括、家族の方々に出席していただき、意見交換を行っている。そこで頂いたアドバイス等は、実際に会議にて検討し、実践している。	会議には、市の担当課職員、地域包括支援センター、民生委員、家族の参加を受け2ヶ月に一度実施しています。会議ではホームの現状報告のほか、参加者との意見交換を通じてサービス向上に繋げていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援方法や家族対応などで事業所だけでは、判断が難しい事項が生じた場合は、担当者に相談している。	市の担当課の方も運営推進会議に参加されており、ホームの現状や課題について共有しているほか、会議を通じて様々な助言等頂く事ができています。また市内系列事業所で実施している認知症カフェ開催に際しても市の担当課の協力を得ることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やユニット会議を通じて職員間では共通の理解をもって取り組んでいる。	ホーム内で毎月実施している施設内勉強会の虐待事例をテーマにしたケースワークを実施し職員の理解を深めています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の意味を深く知るために全体会議後に職員が講師となった勉強会をし、皆で共有している。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する事例が生じた際に、介護保険課の担当者と話をする機会を持ち利用者様に合わせた仕様が出来るように施行している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が不明な点や不安に思う点・ご希望などを聞き、ご家族様に十分に納得して頂いた上で契約成立となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時などに口頭にて、意見が寄せられている。又、家族会にて意見交換の場を設けている。	ホームでは定期的に家族会を開催しています。家族会を通じて意見や要望を確認するほか、日頃面会に訪れた際にも都度確認を行っています。利用者からの意向や要望は毎月介護相談員の方が来所され意向や要望等を表出できる環境としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティング、また、ユニットミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。その中で取り入れることがあれば、積極的に業務に反映している。	日々の支援や業務を通じて職員が困ったことが生じた際にはユニットリーダーに相談できる体制としています。また、毎月ユニット会議を定例化し、業務や支援の見直しについて意見や提案を収集し、日々の業務に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を活用し面談をしながら個人のスキル・モチベーションの向上を図っている。又、社員・準社員の登用試験にも挑戦出来る様援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、社内研修に積極的に参加してもらえるように、シフトを調整している。業務内でのOJTにも留意している。(新人に対してはOJTシートを活用している)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修や、リーダー交流会への出席を行っている。会社の親睦会等で交流の機会を設けている。又、社外研修や浦安市連絡会等へ出席し交流の機会を設けている。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人に会いに行き、その時の様子を見たり、話を聞くことで個人に合わせた支援の方向性を考案している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族との話し合いを密にし、意見交換・相談を行いながらご家族も安心して預けられるような信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を迎えるに当たり、ご家族からの情報等で収集した情報を事前に他スタッフと共有し合いあらゆる点から一人の利用者を見ていけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体験入居利用を積極的に進め、今必要としている支援の見極めや不安の払拭に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のペース、意志を第一にすることを徹底させているが状況によっては不十分な時もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・電話などご家族とご本人との関わりの時間を大切に考え、提供できるよう援助している。又、月初めに生活状況シートをご家族に郵送し報告や相談を行っている。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、ご家族や友人の来訪の受け入れ、お彼岸には家族と一緒に墓参りに出かけるなどの取り組みを通じて馴染みの関係が途切れない支援につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時の組み合わせやゆっくり出来る時間の席の組み合わせを調整し、職員が居ることで自然に話をしたり馴染みの関係になっていくよう日々努めている。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にサービス終了後にフォローが必要と思われる利用者の家族には連絡を入れている。また、退去時には困ったことがあった時には、連絡できることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールを活用し、思いや意向を考えつつ、日々の会話の中から現在のADLに合わせた支援方法で取り組めるよう努めている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの活用を行いご家族との会話やご本人との会話を基に情報理解の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表に添った支援を行うことで、現状の変化の早期発見に努めている。又月2回の訪問診療・訪問看護での結果を決まった用紙に記し、情報を共有居ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行うミーティングの中で現在の課題等あれば話し合いを行い、必要であれば家族へも相談を持ちかけている。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当者会議を開催し、職員からの意見のほか、利用者本人や家族の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認する仕組みとしています。	現状ケアプランの内容がやや画一化されているため、担当者会議で検討した内容をケアプランに確実に反映できると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録へ記入することはもちろん、必ずユニットに入る前に、各ご利用者様の最近の情報を把握し情報共有に勤めている。又ユニット、ミーティングにてモニタリングも実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課表に添った支援を行うことで、現状の変化の早期発見に努めている。又月2回の訪問診療・訪問看護での結果を決まった用紙に記し、情報を共有居ている。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に3日の買い物を通して顔なじみの関係になり気軽に挨拶を交わすことができるようになっているが、その他の地域資源をまだ把握しきれていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が月2回あり、それ以外にも常に電話連絡ができる体制を整えている。緊急時には、かかりつけ医に上申し指示を仰ぎ対応している。	ホーム協力医療機関の主治医による月2回の往診のほか、訪問看護とも連携を図り、必要な医療が受けられる体制を築いています。協力医療機関とは24時間連絡が取れる体制であり、緊急時に迅速な対応を可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎火曜日の訪問看護の日に健康管理記録にて経過報告等行ない、的確なアドバイスを受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を取っている為、迅速な入退院の対応が出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。現段階では対象の利用者がいない。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急フローマニュアルを各ユニット・事務所に設置しいつでも確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練・避難訓練を行い、災害時の対応に備えている。地域の方へ訓練への参加をお願いしているがまだ、参加して頂く段階には達していない。	平成29年11月と平成30年3月(予定)の年に2回日中及び夜間を想定した避難訓練を実施しています。災害時に備え、ホーム内に備蓄品を確保しているほか、地震や風水害時の対応についても「災害マニュアル」に明記しています。	災害に備え今後も引き続き計画的な訓練の実施のほか、災害発生後、家族に対してどのような手段で利用者の安否を報告するかについてもより明確になることを期待します。

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思い、要望等は、普段の業務内の中から言葉だけに頼らずアセスメントするよう注意している。コミュニケーションの難しいご入居者には、担当者会議等で話し合い、常にご本人様本位の支援を心掛けている。	日々の申し送りや毎月のユニット会議を通じて、言動や行動等を振り返り、利用者に対して不適切な対応にならないよう取り組んでいます。居室への入室に際しても一声かける、ノックをしてからの入室を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントの活用を行いご家族との会話やご本人との会話を基に情報理解の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人主体とした生活リズムを組み日々の生活の中に本人らしい役割を取り入れられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人一人での整容が難しくなってきた為、季節に合わせた衣類や髭・整髪などの身だしなみも介助し一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、珍しい物など毎日違ったメニュー作成に取り組んでいる。	食事のメニューは各ユニットの献立担当者が中心となり決めています。食材の買い物や食事の準備、後片付けには利用者も率先して関わっています。食事を楽しめるように、利用者の要望に応じて個別で外食にお連れするなどの取り組みも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成の際に栄養バランスを考え作成している。食事量・水分量は毎食毎に記録し、把握している。摂取のタイミングにも気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	他事業所ではない共有スペースに洗面台が設置されているため、一人一人の口腔ケアの確認が徹底してできている。		

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁など増えてきた為夜間帯のみリハビリパンツを使用する方が増えた。適時トイレ誘導・声掛けは行い、出来る限りのトイレでの排泄を促している。	利用者の一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品を多く取り入れ、午前中に散歩や外気浴・体操などを行い、なるべくご自身で気持ち良く排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、時間は決めずご本人のタイミングで入浴を楽しめるよう支援している。入浴時間は急ぐことのないよう、ゆったりとした時間を送れるようにしている。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。菖蒲湯やゆず湯などの季節風呂やクリスマスプレゼントとして入浴剤を贈呈しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと休めるように日中日を浴びて活動的にいられるようにし、夕方になるにつれ、ゆったりとした時間を送ってもらえるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効用・副作用については個人ファイルに情報を随時提示し、いつでも新しい情報を職員全員が見られるようにしている。薬の変更については診療結果として日誌に提示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課の中の外出支援ではあるが、話の中で行きたい場所等ある場合はご本人の希望として行き先を変更し支援している。ご家族を含めた外出行事も実施しゆったりとした時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日預り金の中身チェックを行い、個人のお金を大切に扱っている。また、使用時以外は預り金キャビネットの鍵を閉めている。個人・ご家族の要望により預り金より支払えるよう支援している。	天候の良い日にはホーム周辺の散歩に利用者をお連れしたり、食材の買い物に出かける際には利用者も同行しています。また各ユニットで外出行事を実施したり、個別の要望に応じて個別外出支援を通じて戸外に出かけられるように支援しています。	

グループホームきらら浦安富士見(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日預り金の金額確認を行い、個人のお金を大切に扱っている。また、使用時以外は金庫保管の上で専用キャビネットの施錠を徹底している。本人・家族の要望により預り金より支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は電話等出来る様になっている。また御家族より電話が入りご本人が電話口でお話し出来る様見守りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日夜間に床や手すりなどの掃除を行い、異臭・汚染を出来る限りなくせるよう配慮している。窓に花を飾り、こことよく過ごせる環境を提供している。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席やソファの形を職員みんなで話し合い、共有空間として過ごしやすく・動きやすい場所の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物を置き、ご本人が親しみを持って、落ち着ける環境であるかどうかご家族とも話し合いご本人の言動から一番良い環境を探している。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々のご利用者の言動から行動の範囲を考え自身で考え行動できる環境を提供し、その導線に危険なものを置かないよう職員同士声を掛け合っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200125		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら浦安富士見 (2階)		
所在地	千葉県浦安市富士見5-15-11-1		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成30年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

専門家による、日常生活動作(ADL)維持のための集団体操を継続して実施し、認知症ケアに精通した職員によるコミュニケーションを大切にした自立支援を中心に取り組んでおります。ご利用者様が住み慣れた地域での安心と安全な生活を送っていただけるようなサポート体制の強化と、ご家族様や地域に向けた認知症の正しい理解を求める取り組みにも努めていきたいと考えております。又、職員間においては意見交換を活発に行い、同じ方向に向かう事で離職を防ぎ、一丸となって利用者様支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは、利用者一人ひとりの思いや意向を日々大切に確認し、居室担当の職員がマンツーマンで担当の利用者と外出できるように取り組んでいます。都内の駅巡りや楽しいランチタイムが過ごせるように寿司外食に出かけたり、市の文化会館で開催された歌声コンサートの観覧など、利用者が行ってみたいと要望する場所や食べてみたいと要望することに個別支援を通じて丁寧に対応しています。職員一人ひとりがホームのスローガンである「笑顔あふれる」、「活気あるホーム」を大切にしており、限られた職員体制ではありますが、時間を有効的に活用し個別支援を通じて利用者の要望に応えることができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方であるお客様、そのご家族様との信頼関係構築に努め、信頼を得てきている。また会社の企業理念、運営理念を朝礼時に唱和している	会社の企業理念、運営理念を事務所内に掲示しているほか、毎朝の朝礼で唱和し理解を深めています。また「健康で笑顔・花があふれる活気あるホームへ」をホームのスローガンに掲げ、全体で共有し日々の行や支援に活かせるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物支援や近隣の飲食店への外食支援等を通して地域との交流に努めている。又、自治会の夏祭り等への参加も行い、地域の一員でいられるよう支援している。	買い物で近所のスーパーを活用したり、近隣の飲食店を活用した外食支援を通じて地域の方と交流が図れるように努めています。また、自治会長から地域情報の提供を頂くなど、協力を得ることができています。	今後に向けては、地域のボランティアなどの受け入れなども進め、地域との交流がより充実していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でホーム内で行った研修の内容(認知症も含)を発表し理解を得られるよう努力しているが、地域全体へ広める取り組みは行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においての報告をしっかりと行い欠席者への議事録の発送も行っている。又、質疑応答を通してお客様や行政・近隣事業所の声を吸い上げ、サービス向上に取り組んでいる。	会議には、市の担当課職員、地域包括支援センター、民生委員、家族の参加を受け2ヶ月に一度実施しています。会議ではホームの現状報告のほか、参加者との意見交換を通じてサービス向上に繋げていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、お客様やユニット職員の状況について情報共有を行っており、協力関係も築けてきている。	市の担当課の方も運営推進会議に参加されており、ホームの現状や課題について共有しているほか、会議を通じて様々な助言等頂く事ができています。また市内系列事業所で実施している認知症カフェ開催に際しても市の担当課の協力を得ることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、ご家族様のご希望で1名のみ拘束ベルトの使用をしていたが、ミーティングでの結果をご家族に了承を頂き現在は使用していない	ホーム内で毎月実施している施設内勉強会の虐待事例をテーマにしたケースワークを実施し職員の理解を深めています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の意味を深く知るために全体会議後に職員が講師となった勉強会をし、皆で共有している。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に管理者が不明な点や不安に思う点・ご希望などを聞き、ご家族様に十分に納得して頂いた上で契約成立となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご面会時などに口頭にて、意見が寄せられている。又、運営推進会議にて意見交換の場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時や運営推進会議を通して意見を聞いたり、介護相談員の導入も行っている。	ホームでは定期的に家族会を開催しています。家族会を通じて意見や要望を確認するほか、日頃面会に訪れた際にも都度確認を行っています。利用者からの意向や要望は毎月介護相談員の方が来所され意向や要望等を表出できる環境としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の勤務時間内やユニット会議を通して意見・提案を聞き、話し合いの場を設けたり必要の際は個別面談も行っている。	日々の支援や業務を通じて職員が困ったことが生じた際にはユニットリーダーに相談できる体制としています。また、毎月ユニット会議を定例化し、業務や支援の見直しについて意見や提案を収集し、日々の業務に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別の面談を行い、スキル・モチベーションの向上を図っている。又、社員・準社員の登用試験にも挑戦出来る様援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットの状況を把握出来る様、職員個人との話の場を設けアドバイスを行ってくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居前のご本人に会いに行き、その時の様子を見たり、話を聞くことで個人に合わせた支援の方向性を考案している。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人に会いに行き、その時の様子を見たり、話を聞くことで個人に合わせた支援の方向性を考案している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族との話し合いを密にし、意見交換・相談を行いながらご家族も安心して預けるような信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を迎えるに当たり、ご家族からの情報等で収集した情報を事前に他スタッフと共有し合いあらゆる点から一人の利用者を見ていけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護に関する基礎的な知識やルールはぶれないようにしている。職員が居ることで利用者様が安心して暮らしていける信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・電話などご家族とご本人との関わりの時間を大切に考え、提供できるよう援助している。又、月初めに生活状況シートをご家族に郵送し現状報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様本人のバックヤードを大切にしながら、日々の支援を日々心がけていると同時に、時間の経過と共に薄れゆく記憶の中で職員との馴染みの関係を構築し安心していただけるよう努めている。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、ご家族や友人の来訪の受け入れ、お彼岸には家族と一緒に墓参りに出かけるなどの取り組みを通じて馴染みの関係が途切れない支援につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係把握をし、構築できるよう支援に努めているが、お一人が好きなお利用者もいる為、その人に合わせた対応を行っている。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にサマリー作成やサービス終了後にフォローが必要と思われる利用者の家族には連絡を入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行と共に変わりゆく状態に対し、真摯に向き合いその方のペースに合わせた支援を検討している。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に協力を頂き、情報の把握に努めている。業務内での会話で常に新しい情報得よう気を配り、その上でスタッフで共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集にて心身状況を把握、入居後もご本人、ご家族と相談の基、ケアプランを作成している。できることに関しては可能な限り行える環境を整備して行ってもらっており、そのつど日課表を更新し統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リーダーをはじめ、各スタッフとの話し合いを密にし、ご家族への情報共有を取りながらケアマネを通して介護計画を作成している。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当者会議を開催し、職員からの意見のほか、利用者本人や家族の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認する仕組みとしています。	現状ケアプランの内容がやや画一化されているため、担当者会議で検討した内容をケアプランに確実に反映できると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤前の記録類の閲覧を徹底して行い、情報漏れのない状態でケアに当たれる様努めている。又、日々の気づきや疑問も日誌に記入するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望全てに実施できてはいないが、出来る限りニーズに合わせた柔軟な支援が出来る様努めている。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店や施設等を活用する事で顔なじみにはなれてきたが、その他の地域資源を把握しきれしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族様対応の受診の際には、ご家族様への情報共有を密に行い、支援に反映している。 ・訪問医との連携は往診のみならず、日々の状況変化も細かく情報共有している。	ホーム協力医療機関の主治医による月2回の往診のほか、訪問看護とも連携を図り、必要な医療が受けられる体制を築いています。協力医療機関とは24時間連絡が取れる体制であり、緊急時に迅速な対応を可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎火曜日の訪問看護の日に健康管理記録にて経過報告等行ない、的確なアドバイスを受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を取っている為、迅速な入退院の対応が出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入退院を繰り返しているご利用者様に対しては、ご家族様と今後の方針(急変時)について事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、主治医との連携も密に行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急フローマニュアルを各ユニット・事務所に設置しいつでも確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の他に避難マニュアル・防災チャートの確認を行っている。地域との協力体制はまだ得ていない。	平成29年11月と平成30年3月(予定)の年に2回日中及び夜間を想定した避難訓練を実施しています。災害時に備え、ホーム内に備蓄品を確保しているほか、地震や風水害時の対応についても「災害マニュアル」に明記しています。	災害に備え今後も引き続き計画的な訓練の実施のほか、災害発生後、家族に対してどのような手段で利用者の安否を報告するかについてもより明確になることを期待します。

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から丁寧な言葉かけに努めると共に、施設内研修やユニット会議を通しその大切さを共有している。	日々の申し送りや毎月のユニット会議を通じて、言動や行動等を振り返り、利用者に対して不適切な対応にならないよう取り組んでいます。居室への入室に際しても一声かける、ノックをしてからの入室を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日同じ場面であっても、選択肢を与え、言葉かけもお願いをするような声掛けを実施し、ご本人の意向を引き出せるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人主体とした生活リズムを組み日々の生活の中に本人らしい役割を取り入れられるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おひとりおひとりの嗜好や季節に合わせた身だしなみができるよう、必要に応じお声掛け等で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、かくご利用者様のリクエストメニューを取り入れたり、好みに合わせての個別外食支援も積極的に行っている。又、ご利用者様や職員皆で楽しみながら出来る料理も力を入れている。	食事のメニューは各ユニットの献立担当者が中心となり決めています。食材の買い物や食事の準備、後片付けには利用者も率先して関わっています。食事を楽しめるように、利用者の要望に応じて個別で外食にお連れするなどの取り組みも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記載を確実にし、日々の変化を観察している。また、個人の機能に応じて使用する食器や食事形態等を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	共有スペースに洗面台が設置されているため、一人一人の口腔ケアの確認ができています。		

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の状況を正確にアセスメントし、ユニット会議を通して細かい支援計画を立て実践している。	利用者の一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューの中で、乳製品、食物繊維の多い食材を取り入れるようにしている。また、毎日 外出を設け運動するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ご利用者様への支援の差が出ないように固定の曜日による支援を行っているが、外出や行事等での変化への対応や汚染・体調等のご利用者様の状況に合わせての柔軟な対応も行っている。	入浴については体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。菖蒲湯やゆず湯などの季節風呂やクリスマスプレゼントとして入浴剤を贈呈しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考えながら、自由に休憩してもらっている。夜間ゆっくり休めるように日中活動し、日光を浴び体内時計を合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医・薬剤師と協力しながら、間違いなく服薬していただけるよう対応している。服薬変更があった際はそのつど連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、食器洗い、料理、掃除などご入居者が楽しく参加できるように支援している。又、希望があれば、飲酒・喫煙もスタッフの見守りにて対応している。趣味活動の再現にも力を入れて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員数の関係や、買い物日等の関係でその日の希望に添っての外出はなかなか出来ない。ただ、他の日に出掛けられる事が出来るような調整は行うよう努めている。	天候の良い日にはホーム周辺の散歩に利用者をお連れしたり、食材の買い物に出かける際には利用者も同行しています。また各ユニットで外出行事を実施したり、個別の要望に応じて個別外出支援を通じて戸外に出かけられるように支援しています。	

グループホームきらら浦安富士見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金として事務所で保管している。希望時にご家族の了承を得て、スタッフ付き添いにて買い物をする。希望あれば、ご家族の了承を得て、自己にて管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は電話等出来る様にしている。また御家族より電話が入りご本人が電話口でお話し出来る様見守りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場であるので、各個人の好みを優先するのではなく、ごく自然にシンプルな空間を意識している。又、華美な装飾ではなく、さりげなく意識出来る程度の季節の装飾をいつも決まった場所に行っている。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際や外出・外気浴時にご入居者同士にて談笑されている。居室で過ごす時間も作れるよう声がけを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個人の居室に関しては、危険が伴わない限りご利用者様の好みを最優先にしている。又、やむを得ず環境を変えなければならない時にはアセスメントを行い、ご本人様、御家族様との情報共有を得て少しずつ変更していく配慮をしている。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるものは置かず、居室からトイレ、リビング、キッチンなどいけるように、見守りをしながら必要に応じては一緒に付き添い対応している。		